

科目名	情報音楽論			科目コード	1903
開講学科	音楽学科	単位数	4	形態	講義
教員名	泉川秀文・永原恵三				
授業の目的及びテーマ					
本講義は、一般に鑑賞の対象とされている音楽について、豊かな「情報」として捉えることによって、人間の営みの中に音楽を位置づけ、音楽がどのような情報機能を持っているのかを、日本音楽と西洋音楽それぞれの事例を通じて考察することを目的とする。					
授業概要					
本科目は、通信教材としての教科書による学習と、スクーリングによる講義の受講で構成されている。そのうちの前者は応用音楽学の理論と背景を理解する。そして後者は、さまざまな音楽文化における諸活動 および、事例を紹介し「音楽を情報として扱う」研究方法を実践的学習も交えて身につける。					
授業計画					
第 1 回：イントロダクションおよび、音楽学の領域と応用音楽学について解説する。 第 2 回：音と音楽を情報として扱う方法「音の採集」「フィールドワーク」「資料化」について学ぶ。 第 3 回：音の解釈とその意味、脈絡（コンテキスト）と音（テキスト）の関係および、脈絡変換の考え方について理解する。 第 4 回：事例解説（1） 脈絡変換の諸相を歴史的な音楽を例にあげて考察する。 第 5 回：事例解説（2） 脈絡変換の分析方法を歴史的な音楽を例にあげて考察する。 第 6 回：事例解説（3） 脈絡が音楽に強く作用する例を歴史的な音楽を例にあげて考察する。 第 7 回：事例解説（4） 脈絡が音楽に強く作用し、変換／発展した事例を宗教儀礼等から考察する。 第 8 回：音楽を記譜することについて、音楽の情報化の過程および、記譜法について学ぶ。 第 9 回：歴史的音楽の楽譜をとりあげ、どのような情報が含まれているかを理解し、この音楽固有の分析と再現方法を学ぶ。 第 10 回：音楽文献の書法を学び、文献表の読み取りや作成方法を理解する。 第 11 回：音楽の伝承と楽譜について、民俗芸能を例に考察する。 第 12 回：音楽の記述法について、歴史的音楽の記譜法とその用法を理解する。 第 13 回：脈絡変換についてのまとめとして、実践的方法と音楽と成果の整理について学ぶ。 第 14 回：前回のまとめを基にして、様々な音楽作品あるいは楽器の具体例を取り上げて、音楽と情報との関係を考える。 第 15 回：全体討論と質疑応答および、総括とレポート作成等を行います。なお、小レポートの作成については、各回のまとめとして適宜、実施します。					
テキスト	「応用音楽学」山口修 著 (放送大学教育振興会)		参考文献	配布プリント等	
評価方法：					
通信授業は提出課題3件を以って評価する。 面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。					